

## 令和7年度（地域間幹線系統）生活交通確保計画について

### 1 概要

北部循環コースは、地域間幹線系統（複数市町村をまたがる広域的なバス路線であり、かつ、一定の基準を満たす路線）として、国の地域間幹線系統確保維持費国庫補助金の交付を受けている。この度、令和7年度（補助対象期間は、令和6年10月1日から令和7年9月30日まで）の地域間幹線系統の位置付けに必要な生活交通確保計画（資料5-2）を策定し、愛知県公共交通協議会に提出したため、地域公共交通会議で報告するもの。

### 2 主な内容

#### (1) 路線の特性及び利用者の特徴

- ・令和2年4月1日より、従来の北部コースと東部コースを統合。循環路線とした北部循環コースに路線を再編し、東海市の南加木屋駅に乗り入れるルートとするなどの見直しをした。
- ・令和2年9月24日より、阿久比町のカネスエ阿久比店にバス停を新設し、乗り入れを開始。今年、3月には、健康増進施設（アクアマリンプラザ）とホームセンターのオープンに合わせ、ルート上にバス停を新設した（図1参照）。
- ・公立西知多総合病院への通院需要、知多翔洋高校生の通学需要、名鉄朝倉駅、寺本駅、巽ヶ丘駅、南加木屋駅利用者の需要が見込めるほか、自動車を所持していない高齢者や女性等の買い物利用等を見込んでいる。

#### (2) 輸送サービスの利用促進計画

##### ア 利用者数の目標

- ・年間利用者数 62,800人

##### イ 利用促進策

- ・年に1回の関係市町との情報交換
- ・バスロケーションシステムの運用 など



(図1) 令和6年3月1日のバス停の新設について

### 3 スケジュール

提出した生活交通確保計画は、愛知県公共交通協議会から国へ提出。国の承認を得ることにより、国庫補助の対象として認められる見込み。

市町村名： 知多市

1. 輸送サービスの範囲

(1) 利用対象地域

知多市八幡地区、つつじが丘地区、東部地区、佐布里地区、新知地区

(2) 利用数（現在：令和6年度（見込））

令和6年度：62,200人、令和7年度：62,800人  
令和8年度：63,400人、令和9年度：64,000人

(3) 路線の特性及び利用者の特徴

・令和2年4月1日より、従来の北部コースと東部コースを統合し、循環路線とした北部循環コースに路線を再編した。主な再編内容として、沿線住民の移動ニーズ、生活圏を考慮し、東海市の南加木屋駅に乗り入れるルートとするなどの見直しをした。  
・令和2年9月24日より、新設した阿久比町のカネエ阿久比店のバス停に乗り入れを開始し、令和6年3月1日には、健康増進施設（アクアマリンプラザ）とホームセンターのオープンに合わせ、ルート上にバス停を新設した。  
・公立西知多総合病院への通院需要、知多翔洋高校生の通学需要、名鉄朝倉駅、寺本駅、巽ヶ丘駅、南加木屋駅利用者の需要が見込めるほか、自動車を所持していない高齢者や女性等の買い物利用等を見込んでいる。

(4) 路線の必要性

市内における公共交通空白地域の解消のほか、商業施設が無い沿線地域住民や交通弱者である高齢者や障害者等の日常生活の移動手段として利用されている。また、隣接する東海市は、本市と東海市の公立病院である西知多総合病院が立地していることや、本市東部の東海市に近い地域は東海市の南加木屋駅周辺を最寄り駅や生活圏としていることなど、本市との結びつきが強いことから、本路線により通院する者の移動手段が確保されることや、地域住民の日常生活に必要な広域的な移動手段の確保、維持につながる。加えて、本路線が東海市のらんらんバスと接続することで、乗り継ぎやバスを相互利用する機会が増えることから、両市の公共交通ネットワークの強化となる。

2. 輸送サービスの形態

コミュニティバス

3. 輸送サービスの水準

区分	系統名	運行系統			系統 キロ程	1日当たり 計画運行回数	運行時間帯	備考	
		起点	主な経由地	終点					
計画 (R6.10)	北部循環コース	朝倉駅	西知多総合病院	朝倉駅	循環 27.9	9.8	8:02 ~ 18:45		
									知多市 循環 22.8
									東海市 循環 4.6

4. 輸送サービスの提供主体及びその理由

知多乗合株式会社  
別系統のコミュニティバス業務を受託しており、運行管理上のノウハウ、経験の蓄積があるため。

5. 輸送サービスの提供主体及びその理由

区分	系統名	1日当 たり計 画運行 回数 (回) A	平均乗 車密度 (人) B	計画輸送量(人) 《A×B》	キロ当たり 経常費用 (円) C	当系統キ ロ当たり 経常収益 (円) D	計画実車 走行キロ (km) E	経常費用 (千円) F 《C×E》	経常収益 (千円) G 《D×E》	欠損見込額 (千円) H 《F-G》	負担者別内訳			
											国 (千円)	県 (千円)	市町村 (千円)	事業者 (千円)
計画 (R6.10)	北部循環コース (現行からの変更点)	9.8	2.6	25.4 9.8 × 2.6	402.72	43.42	100,161.0	40,336	4,348	35,988			38,052	

6. 輸送サービスの利用促進計画

(1) 利用者数の目標

区分	6年度(見込)	7年度	8年度	9年度
年間利用者数 (人)	62,200	62,800	63,400	64,000
※上記目標 設定の考え方	年1%の利用者の増を目標とした。			

(2) 利用促進策

区分	利用促進策の内容
7年度 8年度 9年度	・時刻表の配布、ホームページ、広報誌を活用したPR ・G T F S化したバス情報をオープンデータとして乗り継ぎ案内サイトへ提供 ・バスロケーションシステムの運用 ・バスの乗り方教室などの出前講座の開催 ・職員の利用促進

(3) 事業の効果

区分	事業効果の内容
7年度 8年度 9年度	本路線の維持により、東海市にある公立病院への通院客の交通手段が確保される。また、沿線地区の住民には、本路線により市の西部や近隣市町へ通院、買い物に出かけることが可能になるなど、市民の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。

(4) 令和5年度事業評価結果を踏まえた取組等

・バスロケーションシステムの運用によるバス利便性の向上とシステム導入の積極的なPR実施  
・バスの乗り方教室の開催や啓発チラシの配布などバスの利用方法の啓発

7. 収支改善計画（生産性向上の取組）

(1) 7年度の生産性向上の取組

取組	運営主体	沿線市町村①		沿線市町村②		沿線市町村③	
		市町村名	東海市	市町村名	阿久比町	市町村名	
経費削減策等	次の取組により利用者数の増加を図る。 ・時刻表の主要施設への配架、ホームページ、広報誌を活用したPRの実施 ・G T F S化したバス情報をオープンデータとして乗り継ぎ案内サイトへ提供 ・バスロケーションシステムの運用 ・バスの乗り方教室等の出前講座の開催 ・職員の利用促進	ホームページでの相互リンク等によりPRする。 市役所等で時刻表を配架する。 また、10月の東海市循環バスのダイヤ改正により、東海市循環バスとあいあいバスとの乗り継ぎ等を考慮したバスマップを提供する。	・町役場等で時刻表を配架する。				
	随時	随時	随時				
スケジュール等							

(2) 定量的な効果目標

指標	収支改善率1%

【参考】経常収支率

3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
5.4%	6.0%	6.3%		